

「不正にまみれた富で友達を作りなさい」

(ルカによる福音書16:1-13)

「不正にまみれた富で友を作る」とは、どういう意味なのでしょう。富はわたしたちが生活をしていく上で必要不可欠なものです。それ自体、主から与えられた賜物であり、わたしたちがそれを正しく用いることができるならばそれはすばらしいものです。しかし富には、人間を陥れ、墮落させ、道を踏み誤らせる力があります。

今日の旧約聖書であるアモス書は、その良い例を示します。アモスは紀元前8世紀、繁栄した北イスラエル王国で活躍した預言者です。繁栄していても、その現実是不正がはびこっていました。貧しい人々から不正に搾取し、私腹を肥やしていた金持ちたちを、アモスは厳しく糾弾しました。金持ちたちはどうすれば利益を増やすことができるかで頭がいっぱいでした。大切な宗教祭儀や安息日は商売ができなくなるから邪魔だと思っています。確かに豊かな生活を享受する者は、それなりの努力をして、豊かさを手に入れたのでしょう。他人を踏み台にしているとはおそらく思ってもいませんから、その痛みが分からず、実におおらかに豊かな生活を享受しています。しかし、アモスはその無頓着さを批判し、滅びの到来を預言するのです。一部の人間が富を独占する、しかも不正に独占する。それは、一方では誰かの富は取り上げられ、その命すら奪われている、ということに他ならないのです。人の命をも奪うその富はもはや、「不正にまみれた」ものになってしまうのです。

残念ながら、この現実は今もまったく変わりません。どうしたって、この世の富は、人が用いる限り「不正にまみれた」ものになってしまうのです。そういう意味で、富そのものは汚れたものではないにもかかわらず、主イエスは「不正にまみれた富」と言われ、しかし、そのような不正にまみれた富であっても、どのように用いるか、そこが大切だと主イエスは仰っているのです。

富は、人を狂わせ、人を殺しもします。しかし、まったく逆に、人を生かし、人と人との関係を繋ぐものにもなりうる、と主イエスは今日のたとえで言われています。誰も「神と富とに仕えること」はできません。自分は今、神に仕えているか、富に仕えているか、それが分かれば道です。たとえ「汚れた富」でも、それを神と人とのささげ、賢明に用いるならば、「良くやった」と言って、まことの友と永遠の住まいを与えてくださるのがわたしたちの神です。